

## 未来の森をつくろう！ 植樹から始めた「ビーバーの森・紀北」



左／植樹活動に参加したみんなで記念撮影。すがすがしい笑顔！

右上／想いを込めたメッセージプレートを苗木に 右下／未来の森を夢見て、一つひとつ丁寧に植樹

三重県南部にある紀北町。この町で、CSR活動の一環として“未来の森”づくりを進めています。2009年11月、三重県、紀北町、そして三菱重工 冷熱事業本部が一体となり、熊野灘を望む山間の傾斜地に、広葉樹を植樹した「ビーバーの森・紀北」をつくりました。

大きな森も、まずは一本の苗木から。冷熱事業本部の枇杷島工場（愛知県清須市）および松阪工場（三重県松阪市）の社員ボランティア 森づくり実行委員会を中心として、三重県、紀北町、森林組合 おおせの指導・協力を得ながら植樹を行いました。参加したのは、社員とその家族、近隣住民など地域の方々を含めて約200人です。

いざ森づくりがスタートすると、まずは鍬を片手に斜面に穴を掘り、そこにヤマザクラやコナラ、イロハモミジ、イヌシデ、アカガシなど、14種900本の広葉樹の苗木を一つひとつ植えていきました。斜面での作業はなかなか大変ですが、皆楽しそうにいい汗を流していました。参加した多くの子どもたちも夢中で、お父さんやお母さんと一緒になって頑張る姿が見られました。

植樹した苗木には、名前や想いを書いたプレートを取り付けています。家族の名前を書いて、木々と家族の成長を見守ろうという人や、「健康第一」「大きくなれ〇〇の樹」といったメッセージなども。紀北に育つ自分の木に、それぞれの願いを込めました。

参加者は、「景色の大変いいところで、海を見ながら自分の木を植えることができ気持ちよかった」「鍬で力いっぱい穴を掘り、日ごろのストレスを解消できた」と、普段なかなかできない体験に新

鮮な感覚を味わったようです。土、木、海、空……豊かな自然に触れることで、CSR行動指針のひとつである「地球との絆」も実感できたのではないのでしょうか。

さらに、植樹後にはもうひとつのお楽しみもありました。美しい和具の浜に移動して、三重県から提供していただいた幻の魚といわれるマハタの入った地元漁師鍋<sup>おおしきる</sup>「大敷汁」の昼食です。「植樹も楽しかったが、昼食の地元料理や干物などおいしいものが食べられてよかった」と、参加者は大満足。地域の方々との交流を深めることもでき、有意義なひとときとなりました。

これまでも、汎用機・特車事業本部が「かながわ水源の森林づくり事業」に参加協力し、神戸造船所が「神船・大名草の森づくり」活動を実施。また、広島県三原地区の各部門では県内の森林保全活動に、本社でも東京都「海の森」苗木づくりボランティアに参加するなど、各地でさまざまな活動に取り組んでいます。植樹からおよそ1年が過ぎ、紀北町の木々はすくすくと生長しています。苗木のプレートに掲げられた「大きく育った自分の木をまた見にきたい」という願いを叶えるためにも、今後も当社は環境保全活動に力を注いでいきます。

熊野灘を眺めながら名物の大敷汁で空腹を満たせば、疲れも一気に吹き飛ば

